



## 臨死患者とその家族にケアを提供する看護師の役割 Nurses' role in providing care to dying patients and their families

### ICN の所信 :

看護師は、臨死患者とその家族に、思いやりのある熟練したケアを提供するという独自の役割を果たすよう教育されている。国際看護師協会（ICN）は、看護師が、疼痛及び身体的・社会的・心理的・精神的・文化的なニーズを早期にアセスメントし、特定し、管理することによって、臨死患者とその家族の苦痛を和らげ、QOL の改善を図るための緩和ケアにおいて、根幹的な役割を果たすと認識している。ICN は、疼痛やその他の症状を緩和する医薬品や介入へのアクセスは、基本的人権及び尊厳を持って死ぬ権利の一部であるとみなす。

ICN は各国看護協会による下記の努力を支援する。

- この所信声明の原則を完全に承認する国または地域の法律を支持する。
- 死と臨死に関わる複雑な緩和ケア問題に取り組む看護師を支援する。この中には、終末期における思いやりのこもった熟練したケアと疼痛・症状管理の提供；患者の意思・倫理基準・死と哀悼に関する文化的規範の尊重；家庭・病院・ホスピス・老人ホームその他ターミナルケアを提供する場での家族への支援；死別に際してのニーズへの対応；などが含まれる。
- 倫理委員会を含む、臨死患者とその家族のケアのための多職種連携アプローチへの、看護師の参加を提言する。
- 関連法規に基づき、倫理的原則及び文化価値を尊重した看護ケアを推進する。
- 臨死患者とその家族に対するケアなど、死と臨死の問題に関する議論及び、政策、法制に対する看護師の関与を拡大する。
- 基礎教育課程と卒後課程の看護カリキュラムに以下の内容を取り入れることを促進する：緩和的アプローチの理解、疼痛と症状のアセスメントと管理のスキル、文化的価値の尊重、臨死患者が病状をよく知らされた上で意思決定をする権利など。この権利には治療を選択、または拒絶する権利、可能な限り疼痛と苦痛から解放される権利、尊厳ある死の権利が含まれる。

### 背景 :

人々は長寿を享受するようになり、生活に制限を及ぼすような慢性的で複雑な疾患を多々もつようになっている。このような人々とその家族に、緩和的アプローチは多くを提供することができる。看護師には、臨死患者とその家族にケアを提供する上で、豊富な知識と熟練したスキルを持つ責任がある。

臨死患者とその家族は文化的信念と価値観を持つ。看護師は精神的、宗教的な信念を尊重し、文化的な感受性が高く、全人的なケアを提供しなければならない。死が避けられないことを受け容れるケアリングや支持的な環境は、家族が死別の悲しみを受け止め、それに対応することを助ける。

生命維持手段の進歩と QOL をめぐる社会の価値観の変化は、看護倫理的ジレンマをもたらしている。目下の議論では、医学的な死の幫助に焦点が当てられている。しかし他の問題、例えば治療の差し控えや中止の問題、患者による指示と選択、つまり「リビング・ウィル」による事前のケア計画、そして QOL をめぐる懸念はそれと同様に重要である。リビング・ウィルとは、生命維持治療やその他の手段を実施するかどうかに関して、指示を出す権利を患者に与えるものである。

臨死患者のケアをする際の看護師と他の医療専門職の役割については、論議が続いており、看護師は終末期の問題をめぐる現在の課題と法制度を熟知していなければならない。

痛みと苦痛の緩和は看護の根本的責任であり、看護師は、疼痛管理や緩和ケア、人々が悲嘆・死・臨死に対応するための援助において、専門的な教育を受けている。終末期における質の高い看護は、安らかで尊厳を保たれた死に大きく寄与し、死別と悲嘆のプロセスにある家族を支える力となる。

2000 年採択

2006 年・2012 年改訂

#### 関連 ICN 所信声明：

- 看護師とプライマリ・ヘルスケア
- 看護師と人権

2012 年（公・社）日本看護協会訳

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>* 文書中の「看護師」とは、原文では nurse(s)であり、訳文では表記の煩雑さを避けるために「看護師」という訳語を当てるが、免許を有する看護職すべてを含むものとする。</li><li>* ICN 所信声明の著作権は、国際看護師協会(ICN)にあり、ICN の許可のもとに、(公・社) 日本看護協会が日本語訳を作成しました。許可の無い商業目的での使用を禁止します。</li></ul> |
|---|